

「書く力」を、ぐんと

伸ばす。

令和3年度版『中学書写』

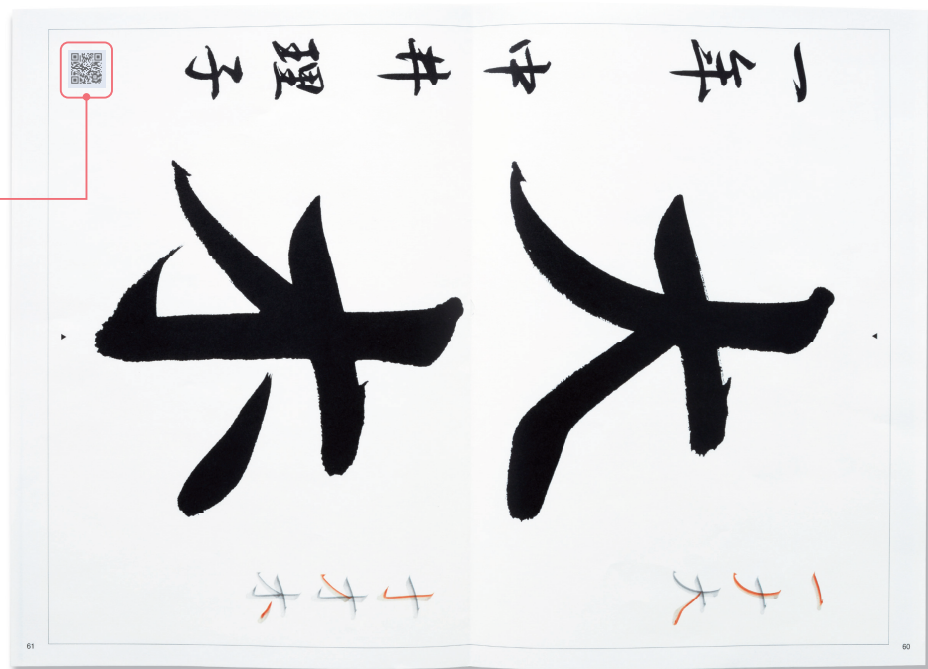
令和3年度版『中学書写』のご紹介。『中学書写』の編集委員である
甲斐利恵子先生とともに、新しい教科書のおすすめポイントをご紹介します。

半紙原寸大

大きく分かりやすい教材文字で、さらに学びやすくなりました。

筆使い動画

紙面のQRコードを読み取ると、筆使いを動画で確認することができます。



行書の基本的な書き方を学ぶ教材は、
4ページ構成としました。

▲1年60-61ページ

筆使い動画が閲覧できる

教科書紙面のQRコードにスマートフォンやタブレットをかざすと、筆使い等の動画を閲覧することができます。紙面では伝わりにくい文字の書き方への理解が、ぐっと深まります。



甲斐先生 筆使いを教えるとき、水書板を使って手本を示したりしていましたが、生徒には伝わりにくいだらうなと思っていました。動画を見ながら説明できるのもいいですし、画像を止めてポイントを示せるのもいいと思います。書写を専門にしている先生方にも、強い味方になってくれるのではないのでしょうか。

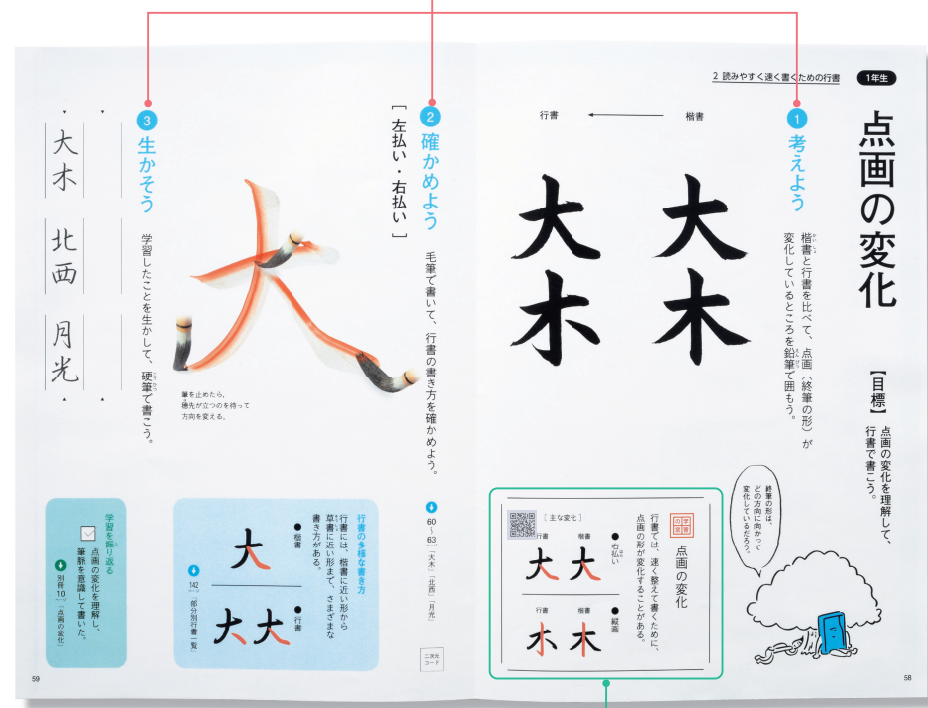


新版教科書には、書く過程の筆使いを朱墨や補助線、写真などで丁寧に示しました。墨で書かれた「結果」だけを見ても「どうすれば」この線が書けるのかは読み取れませんが、これなら生徒もどうやって書いたのか再現できます。

一、学びやすい、教えやすい

学習の進め方

「何を、どう学ぶか」がわかるよう、
学習の進め方を示しました。



▲1年58-59ページ

「学習の窓」

学習のポイントを簡潔にまとめました。何を学ぶかがひと目で
分かつと同時に、力をつけるための学習語彙が身につきます。

学習の進め方がわかりやすい

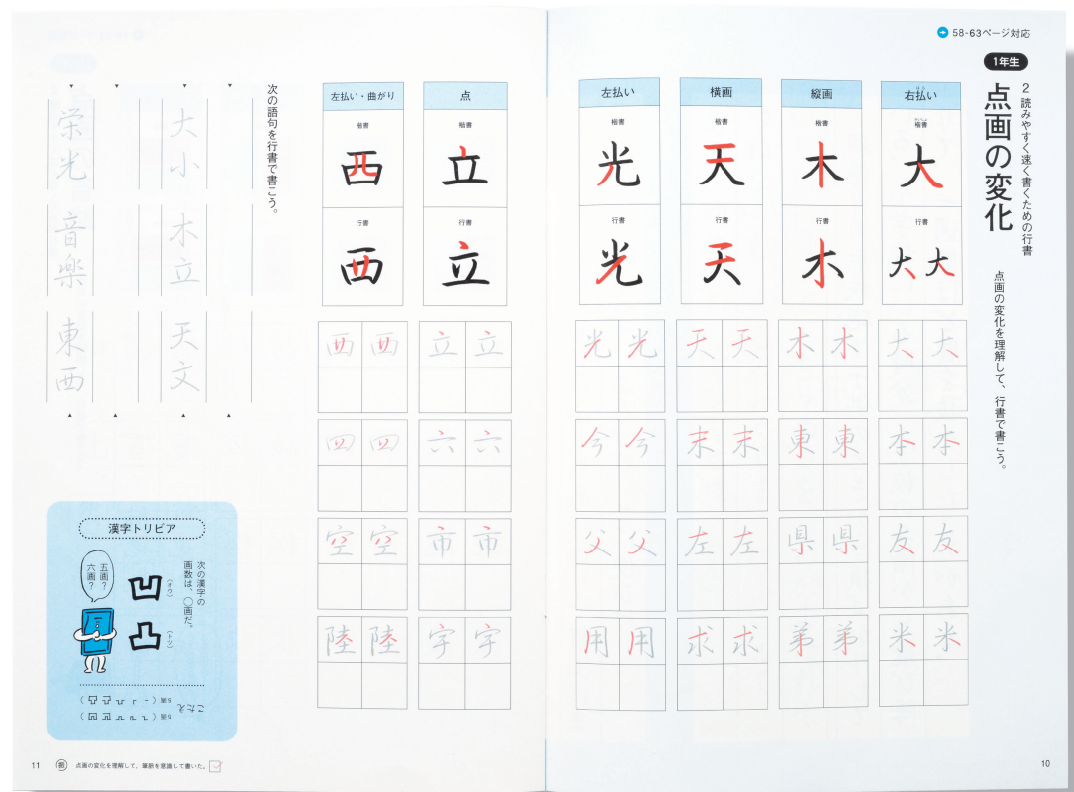
見通しをもって主体的に学べるよう、全ての学習ページに「学習の進め方」を明記しました。
① 考えよう（文字の整え方の原理・原則の発見）
② 確かめよう（書いて原理・原則を確認）
③ 生かそう（日常の文字に生かす）という三つのステップで、他の文字を書くときにも広く応用できる「書く力」を育みます。



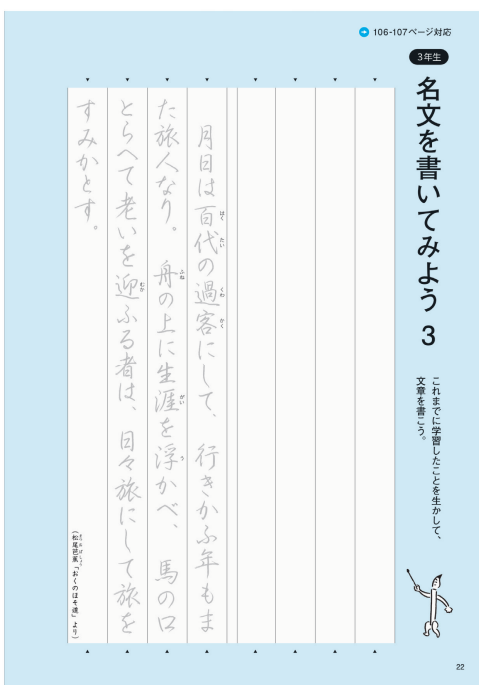
甲斐先生 何かを学び、習得していくには、「考えること」「言葉にすること」が不可欠です。①③の学習を通して、書くこととする文字としっかり向き合うことで、生きて働く「書く力」が身につきます。

半紙原寸大で学びやすい

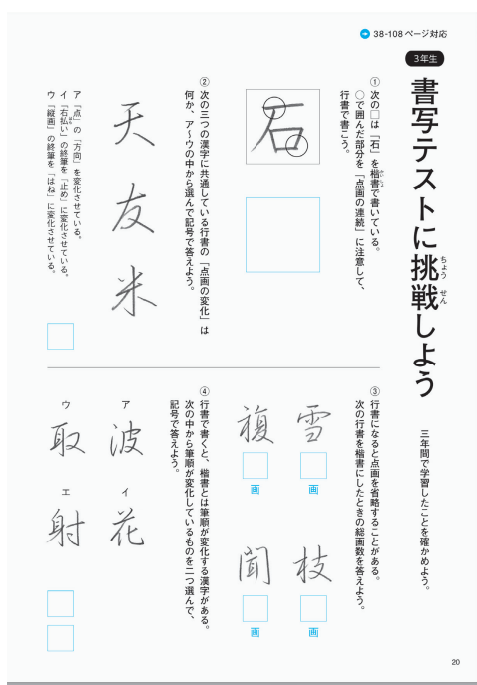
行書の基本的な書き方を学ぶ教材には、半紙原寸大を掲載。書き方を観察したり、自分の書いた文字と比べたりするには、同じ大きさであるほうが学びやすく、学習効果も高まります。併せて、朱墨の文字を掲載し、書くときの筆の動きを視覚的に示しました。



▲書写ブック10-11ページ



▲書写ブック22ページ



▲書写ブック20ページ

行書の練習

毛筆教材と同じ要素をもつ文字を繰り返し練習することで、毛筆と硬毛を関連させ、学びの定着を図ります。

学力テスト・入試の対応

全国の入試問題を分析し、出題傾向の高い内容を掲載しました。



「書写ブック」

教科書に完全準拠した全28ページの硬筆練習帳を新設。

「教科書」で文字の整え方を確認する。



「書写ブック」の硬筆課題に取り組み、毛筆での学習を定着させる。



「書写ブック」には、「整った文字」への道筋がくっきりと示されています。何を認識することが「文字」そのものを理解することになるのか、どのようにして美しい文字は生み出されるのか、実際に手を動かすことで身体の中に入ります。

国語で学んだ「扇的」や「おくのほそ道」の文章を、整った文字で書けたらさらに味わい深くなるでしょう。取り外せることを生かして、国語の授業でも積極的に活用してみたいかがでしょうか。

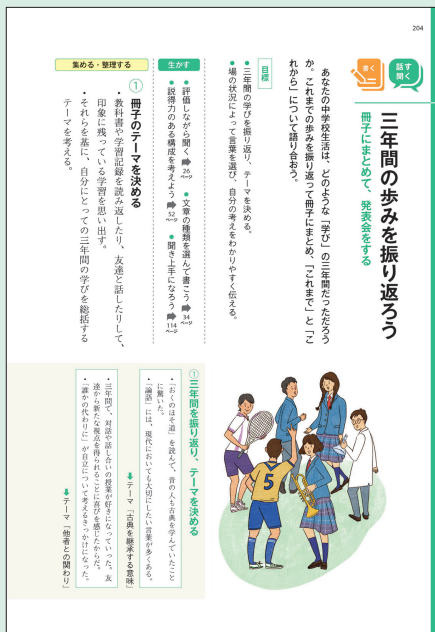
二、書く力が確かに身につく

28ページの硬筆練習帳「書写ブック」

教科書に完全準拠した28ページの硬筆練習帳「書写ブック」を新設しました。行書の練習の他、小学校の復習、書写テスト、名文のなぞり書きなど、毛筆の学習を生かして硬筆で書く活動を豊富に位置づけています。この一冊に、中学校三年間の学びを凝縮しました。



国語 冊子にまとめる言語活動

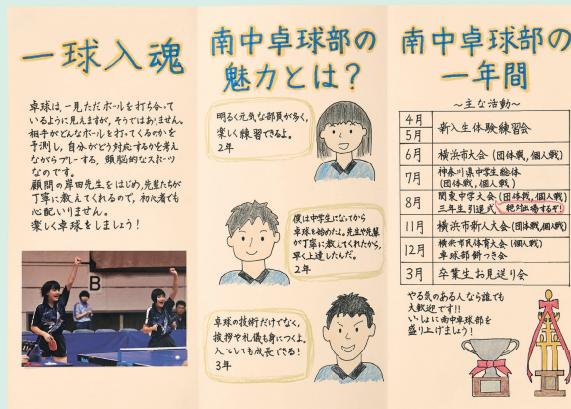


▲3年204-207ページ

2 ゴールをイメージする

国語との関連教材には、手書きの作例を掲載しました。文字の大きさや配列はもちろん、イラストや写真の入れ方とも参考になります。生徒たちは学習のゴールがイメージできて、やる気がアップすると思います。

書写 手書きの冊子例



▲3年108ページ

書写教科書の活用

3つのアイデア



甲斐利恵子 Rieko Kai

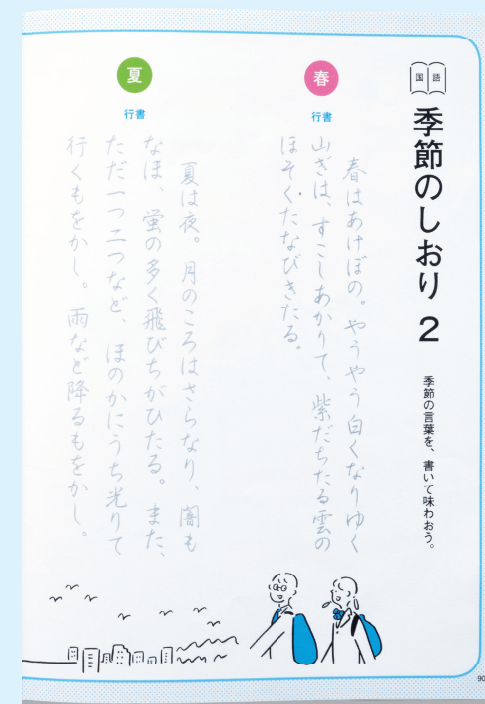
福岡県生まれ。東京都港区立赤坂中学校教諭。光村図書中学校『書写』『国語』教科書編集委員。著書に、『子どもの情景』（共著・光村教育図書）、『聞き手話し手を育てる』『中学校国語授業づくりの基礎・基本』（ともに共著・東洋館出版社）など。



1 理解を深める

国語で学んだ魅力的な言葉や文章を、書いて味わうことができる教材です。美しい文章や味わい深い文章を、整った楷書や流れるような行書で書けるなんて、嬉しいですよ。

書写「枕草子（なぞり書き用教材）」



▲2年90-91ページ

国語「枕草子」



▲2年28-31ページ

▼3年92-95ページ

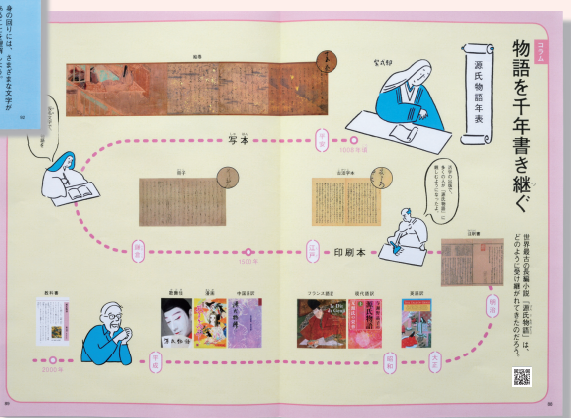


書写 身近な文字を集めた「全国文字マップ」

書写「源氏物語」がどのように書き継がれてきたかを取り上げたコラム、「物語を千年書き継ぐ」

3 文字が好きになる

新しい教科書には、コラムなど、ユニークで面白い教材がたくさんあります。「文字」というものが、いかに私たちの文化を支え、日常生活に彩りを添えているかが確実に伝わってきます。空気のように絶対に必要なのに、普段は気づいてもらえない文字たち。文字のことが愛おしくなる情報が満載です。



▲2年88-89ページ